

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 5月 6日

事業所名 かのん

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%		
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%	0%	日によったり、お子さんの特性によっては人数が少なく感じることがあります。集団で遊んだり、職員と個別で過ごす時間を決めたりして対応しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	50%	0%	床が固いのでマットを敷いて安全面を考慮しています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	25%	0%	毎日ミーティングを実施しています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	毎年1回実施してホームページで公表しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	50%	25%		法人には第三者委員がいますが、放課後デイでは活用していません。今後必要であれば検討します。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	外部の研修会に参加する機会を設けています。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%	0%	保護者より様子やニーズを聞き取り、個別支援計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	0%	25%		VinelandのアセスメントやWISC検査などの活用を検討します。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	25%	75%	0%	担当者が立案し、計画や実行には他の職員も参加して進めています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	25%	75%	0%	お子さんの主体性を大切にし、お子さんがしたいことをプログラムに取り入れています。特性により決まった活動を好むお子さんもいるので、決まった活動を長期間取り入れることもあります。その中で、変化を持たせたり新しいことを取り入れたりすることもあります。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	25%	25%	休日、長期休暇には外出やイベントなどを実施しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%	0%	お子さんの特性に合わせて、必要性を考えています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	75%	25%	0%	その日の予定や流れを確認するための打ち合わせシートを活用し、毎日ミーティングを実施しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	0%	翌日に振り返りを実施し、他の職員にも共有をしています。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	記録を記入し、確認することで効率的に情報共有を行っています。		

関係機関や保護者との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	半年に1回実施しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	50%	50%	0%		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75%	25%	0%	そのお子さんのことをよく知っている職員が参加するようにしています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	送迎時に学校教員から話を聞いて連携をしています。保護者と情報共有をしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	75%	25%		医療的ケアが必要なお子さんはおられません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	0%	25%		就学して利用されるお子さんはおられません。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	50%	25%	25%		学校を卒業するお子さんはまだおられません。今後必要になれば、情報共有をしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50%	50%	0%	地域の公園で近所のお子さんと一緒にサッカーをするなど交流することがあります。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50%	50%	0%	毎回代表者が参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	送迎時、電話、面談などでお話をして、様子を共有するようにしています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	25%	50%	25%			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	25%	0%	利用開始時に説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75%	25%	0%	送迎時、電話、面談などで相談があれば、お話を聞き、助言をしたり必要な支援を考えて実施したりしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	25%	25%	子どもと一緒に楽しんで様子を見てもらえる保護者交流会を実施しました。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	75%	25%	0%	苦情があった際にはお話を聞きし、迅速に対応を考えて実施するように努めています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	法人の会報として『ポポロ通信』を発行しています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	鍵付きのキャビネットに保管しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	75%	25%	0%	お子さんの特性に合わせて、言語以外に、文字やイラスト、写真などを活用してコミュニケーションをしています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	50%	25%		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0%	100%	0%		策定はしていますが周知にまで至っていません。今後周知をしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	25%	75%	0%		今後お子さんと一緒に避難訓練を実施していくことも検討します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	50%	0%	研修を受けるようにしています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	25%	0%	やむを得ず身体拘束を行う場合には、個別支援計画に記載をし、保護者に説明をして了解を得ています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%	0%	保護者より医師の診断書を受け取り、診断書に基づいた対応をしています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	50%	50%	0%		ヒヤリハットを作成していますが、共有する機会を設けていきます。